

す。また、うんざりしている自分にも嫌気がさしていました。

あの日から約3ヶ月が経ちました。年月とは怖いものです。まだ3ヶ月しか経っていないものの、既にこの地震のことを忘れつつある自分がいます。3ヶ月前は地震と津波被害のことを考えない日はなかったほど、あれこれ悩み、自問自答しました。しかし、まるでそのような時間さえなかったかのように、今は気がつくとお習習を中心とした生活になってしまっています。もちろん自身の中で、先の震災に対する考え方が定まったのも一つの理由かもしれません。しかし、医学にどっぷり浸かるだけでなく、常識的な社会感覚も忘れないよう注意しながら、生活していきたいです。

今何をすべきか

井上純一（4年次）

今年3月、東日本大震災が発生した。非常に多くの方が被災し、多くの死者・行方不明者を出した。被災地では今もなお避難生活が続いている。私は地震の瞬間沖縄にいたが、町が波にのみこまれる光景をテレビで見て衝撃を受けた。あまりにもショックで、私はしばらく何も手につかなくなった。

現在、私は4年次に在籍しており、3年後には医師になる。いや、むしろ3年後には医師になってしまう。今、危機感がある…自分は今何をすべきなのか。

私は2年次に学士編入したが、これまでの2年間次々に課される試験をクリアするのに精一杯だった。3年次の後期から臨床の授業が始まり、医師としてどう治療すべきか、という視点での内容が多くなってきた。5年次からはポリクリが始まり、より一層医師に近づいていく。

私はある先生の言葉が非常に印象に残っている。医師という仕事は、「自分のせいで人を死なせてしまう可能性がある」という言葉だった。医師という職業柄、当たり前起こりうることはある。ただ、徐々に医師に近づいている実感がある今、この事実が非常に心に響き、命の重みを身近に感じる。

東日本大震災では多くの死者が出たが、このことに関して私達の元には何名の方が亡くなられたという情報しか入ってこない。しかし、その数字の数だけ人生があり、その数だけ未来があった。それが一瞬にして失われた。これだけの人生と未来が失われたことは非常に嘆かわしいことだと今強く感じる。ただ、これは所詮被災していない立場での感覚に他ならない。それ以上に重要なのは、亡くなった方にとってはその人にしか体験出来ない、たった一度きりの人生だったということだ。人生が失われる感覚は自らが最期を悟ったときにしか分かり得ないと私は思う。この感覚は今の私には絶対に分からない。

医師として患者に向かい合う時、患者がどのような痛みを持ち、

どのような感覚でいるかを推測することは出来ても、全く同じ体験をすることは出来ない。これは私だけではなく、どんなにベテランの医師でも同じことである。

患者に向かい合わなければいけない時までに、私は何をすべきか。たくさんを経験し、たくさんの人に触れ、たくさんの方々の感覚や感情や考え方を養うことによって相手との感覚のギャップを埋める努力をするしかないと思う。もちろん、十分な医学的知識を身に付けておくことは言うまでもない。

私はこれを実行しているとは到底言えない。ただ、今回の震災を通してこのような危機感を持ったことは確実に始まりとなる。私が本当にどのように感じたかは他の人には体験出来ない。だからこそ、これから自分が何をすべきで、どのような道を歩むべきかは私自身で考えていくしかない。

3年次近況報告

湖山知篤（3年次）

同窓会の皆様初めまして、今回近況報告をさせていただきます3年次の湖山知篤です。

日本が未曾有の災害に見舞われながら始まった3年生も、すでに前期の中盤まで終わろうとしています。入学して3年目になり、本土から来た僕らも沖縄っぽい言葉を乱用するようになるなど、沖縄での生活に慣れてきたなと感じるようになってきました。勉強の方は3年次になり、薬理や病理といった基礎医学のメインディッシュを相手に日々悪戦苦闘中の人もいれば、2年生の時につかんだ勉強のペースそのままにおいしく頂いている人もいます。僕はもちろん薬理に病理にその他の教科で苦戦中でありませう。

勉強以外の活動といえば、多くの3年生がいろんな部活で活動していることだと思います。4月は1年生に自分の部活の良さを分かってもらうために頭と体力とお金を使い、5月の上旬には1・3新歓もありトロピカルビーチで1年生と半日楽しみました。2年前にはお肉を焼いてもらう立場だったのに、今は焼いてあげる立場になったり、車を出してくれる人がいたり僕と同級生も先輩になったんだなぁと実感しました。そんな中僕は2年前とやる事があまり変わらず同級生が焼いてくれる物を食べ、同級生の車で帰宅しました。また5月は九山で内地に向いた人が多かったと思います。僕が所属している硬式テニス部は3月末に予定していた九山でしたが地震の影響を受け5月末に開催されました。

長崎に出発する4日くらい前に一時は中止とされた硬式テニス競技でしたが、主幹校や他の学校の関係者の方々の努力の甲斐もあり、5月に福岡で開催されることになりました。

その九山でのテニス部の結果は「男子部優勝!! 女子部準優勝

